



立地企業交流セミナー 開催のお知らせ

郡山市では、企業間交流のきっかけづくりの場となる「立地企業交流セミナー」を開催します。

今年度は対象事業者をこおりやま広域圏(17市町村)内に拡大し、各種支援機関等も一堂に会するイベントとなります。

新たな取引先の開拓、郡山市進出企業と話すきっかけがほしいという事業者様は、ぜひご参加ください。

日 時：12月16日(火) 14:00～17:00 ※13:30～開場・受付開始

会 場：ビッグパレットふくしまコンベンションホール

対 象：郡山広域圏内立地企業またはこおりやま広域圏への立地を予定している企業

企業間の交流を目的とする企業であれば、どのような業種の方でも参加いただけます。QRコードから申込みは

(例)製造業、運輸業、卸売・小売業、建設業、金融・保険業、サービス業など

内 容：第1部 基調講演「地域内における企業間交流がもたらす産業振興」

帝国データバンク株式会社 営業企画部 部長 上西 伴浩氏

申込みは
こちらから

※QRコードは(株)デンソーウエーブの登録商標です

第2部 交流会

名刺交換会、1分間プレゼン ※プレゼンは応募多数の場合抽選となる可能性があります。



福島県産業支援機関ネットワーク会議(企業連携人材育成事業:福島県委託) 第3回ワークショップ開催報告

自社製品の高度化や水平展開にあたって、自社だけでは対応が難しい技術的課題に対して、産業支援機関のコーディネーターが連携し、県内全域からパートナー企業をお探しする取組です。

第3回ワークショップでは、プレゼン企業6社にご参加頂き、質疑応答が行われたほか、そのマッチングの方向性についてコーディネーター間で積極的に意見交換が行われました。

現在、連携先企業を探索中ですが、既に相互訪問を実施するなど連携に向けた取組みを開始した案件も出てきました。

◆第3回ワークショップ(令和7年10月23日(木) Web開催)

◆参加者54名(県2、支援機関11、自治体10、アドバイス機関8、オザボーラー機関1、企業11、事務局11)

◆内容 ①企業プレゼン6社(福島市、玉川村、泉崎村、喜多方市、南相馬市、いわき市から各1社)

②企業連携促進セミナーについて

【事業スキーム】

企業エントリー

企業プレゼン
(コーディネータ向け)

コーディネータによる
連携先探索

マッチング

連携開始

マイスターズ・カレッジ2025 終了報告

8月27日から開催してきました「マイスターズ・カレッジ2025～ものづくり企業のためのスキルアップ講座～」は11月5日に開催した第10回講座をもちまして終了しました。

今年度は13企業から約170名に参加していただき、製造業に必要な知識や技術の習得及び知見の向上に取り組んでいただきました。特に今年度初開催した「業務効率化のためのAIツール活用実践講座」は全講座の中で最多の受講者を記録し、AIに対する関心の高さを再認識させられました。

今後、受講者アンケートの結果や参加企業との意見交換等を踏まえ、次年度の講座内容を企画していきます。次年度の皆様のご参加をお待ちしています。(※令和8年6月下旬から募集予定です)



サステナブル地域づくりフォーラム 開催報告

11月7日(金)に会津若松市文化センターでサステナブル地域づくりフォーラムを開催しました。かつて日本人の生活を支えた重要なインフラであった木造建築の一つに木橋がありました。12回目の開催となる今回は、木橋の歴史的価値や保存方法を踏まえた持続可能性について、産官学の各講師陣から講演をいただきました。

木橋が建てられた当時の人々の生活の様子や、どのように技術が受け継がれてきたのか、また、今後の木材の活用方法や技術承継という課題について、各講師陣がそれぞれの分野からの視点で講演され、大変興味深い内容となりました。

講演後には木造建築物の代表例として、鶴ヶ城城址公園内にある木橋「廊下橋」と国指定重要文化財に指定されている会津さざえ堂を見学しました。

遠方までご参加いただいた皆様には心より感謝いたします。



第24回 産・学・官連携フォーラム 開催報告

11月18日(火)に日本大学工学部50周年記念館(ハットNE)大講堂において、第24回 産・学・官連携フォーラムを開催しました。テーマは「被災地から生まれたイノベーション」。東日本大震災や能登半島地震などの被災地において、復興支援活動や災害経験から生まれた新しい商品・サービス、地域課題解決を目指すイノベーションが生まれています。本フォーラムでは、災害によって表面化した地域の課題に対応し、新たな価値を創造するため、産学官の立場から、講演をいただきました。

「産業界」からは、『災害対策製品から世界へ』をテーマに神田産業株式会社 ハニアル事業部 営業技術部 石澤秀忠部長。「学術界」からは「口バス工学発「洗浄水再生システム」の開発の軌跡～非常時のトイレ問題の解決を目指して～」をテーマに日本大学工学部土木工学科 中野和典教授。「官」からは「福島イノベーション・コスト構想から生まれたイノベーションとは」をテーマに公益財団法人福島イノベーション・コスト構想推進機構産業集積部の小林 正典 部長にお話を頂きました。ハイブリット形式での開催でしたが、合わせて139名が熱心に受講しました。多くのご参加に心より御礼申し上げます。



日本大学 研究シーズマッチング交流会 参加報告

10月22日(水)、日本大学工学部において、産官学連携推進イベント「研究シーズマッチング交流会」が開催されました。本交流会は日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)が日本大学の各キャンパスで開催しており、今年度は工学部での開催となります。

当機構では本交流会の趣旨に賛同し、後援および名刺交換会へのブース出展を行いました。

第1部では、岩城一郎教授による「口バス工学のこれまでとこれから」というテーマの講演の後、口バスの森「ホール」並びに日本大学発ベンチャー第1号認定「口バスのトイレ」を視察し、トイレは開発者の中野和典教授から直接説明を受けました。

第2部では、6名の先生方による研究シーズの発表を聴講しました。わかりやすく、多くの学びがあり、参加企業との連携が生まれることを期待したいところです。

名刺交換会では当機構のブースに多くの方々にお越しいただき、当機構の事業や入居企業の挑戦内容について関心を寄せていただき、情報交換も積極的に行われました。



オープンファクトリーKORIYAMA2025 工場見学報告

工場見学や、各社の技術や製品を生かしたワークショップを通じて、ものづくりへの関心や興味を深めてもらう「オープンファクトリーKORIYAMA2025」が、11月7日・8日に開催されました。(主催:オープンファクトリーKORIYAMA 実行委員会、共催:郡山市)

参加企業各社の工場では見学ツアーが行われたほか、メイン会場である郡山市中央公民館・公会堂では、7日(金・前夜祭)と8日(土・本開催)を通じてキッチンカー・物販、アーティストの演奏や合唱の発表が行われ、2日間を通じて大変な賑わいを見せっていました。

当機構では、参加企業の一社である「東北冶金工業株式会社(郡山市横塚)」の工場見学を取材させていただきました。

冒頭、小林大輔社長から、会社概要、鋳造の歴史、中核事業の「鋳ぐるみ」技術について参加者へ説明があり、その後、熔融、型製作、切削の各工程の見学が行われました。

小林社長のお話では、オープンファクトリー開始当初と現在では、お客様を迎えることに対する従業員の皆さんの意識に、良い変化がみられるということです。

取材中も、従業員の皆さんにこやかに参加者とコミュニケーションを図り、仕事の中での注意点、各工程の特徴等を、いきいきと紹介していたことが印象的でした。

また、設備や仕掛品の紹介のため、普段は設置していない照明を効果的に配置することで、見せる(魅せる)工夫も随所に見られました。

同社の製品は動力部品の減速機等に使用され、普段は目に見えない場所で活躍することから一般認知度は高くありませんが、「大変な仕事であるが、文明を支えるものづくりである」という小林社長の熱い想いを感じ取ることができました。



金属を熔融する工程は興味津々



実際に触ってみる(加工不良品)

発行元 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

TEL 024-947-4400 FAX 024-947-4475 E-mail:techno@nm.net6.or.jp

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

TEL 024-926-0344 FAX 024-943-4441 E-mail:monodukuri@nm.net6.or.jp

